

THE REPORT TIMES

2018.12.04.tuesday

県立生涯学習推進センター 五十嵐 和彦

7月13/20日：テーマ「地域連携コーディネーターの役割を学ぶ」



講義・演習「県の地域学校協働活動の実態から考える、地域と学校の協働の意義」
講師：五十嵐 和彦
学校を核とした地域総がかりによる地域コミュニティづくりの必要性、学校と地域双方の互恵的な関係の重要性について学んだ。

講義・演習「学校と地域社会の『縁』を結ぶ～地域コーディネーターの役割とやりがい～」
講師：興梠 寛様
海外の経験や実情を踏まえ、ボランティアの意味や意義、その必要性について学んだ。さらに、地域コーディネーターに必要な7つの力や、コーディネート

のための自己評価のポイント等、分類して具体的に解説していただいた。演習では、今抱えている具体的な課題とその解決策を明確にした後、「新たに企画し挑戦したいプログラム」を検討した。

發揮していますか!? ファシリテーション力

講義・演習「地域コーディネーターに必要なファシリテーション力を高めよう！」
講師：本間 莉恵様
ミニレクチャーでは、ファシリテーションの定義や意義、ファシリテーションを行う上での役割(聞く人・書く人・話す人)とスキルを習った。

演習では、ペアインタビュー「これからの子どもたちに必要だと思う学びとは？」を行い、聞く・書く・話す役割を再確認した。さらに、3つのテーマの中からグループで熟議したい内容を選択し、ファシリテーションスキル向上の演習を行いながらグループワークを進めた。

ところで、皆さん！身に付けた知識・理解・スキルは活用していますか!? 現場で何かお困りのことがありましたら、何なりと「県立生涯学習推進センター：五十嵐」に御連絡ください。

9月 地域資源見つけたっ！

講義・演習「地域人材や地域資源を学校の教育活動につなげてみましょう～社会に開かれた教育課程の実現～」
講師：橋本 洋光様
全国で実践された「地域資源を活用した学習プログラム」についての紹介・説明があり、地域コーディネーターの役割や実効性を再確認するとともに、自らの現場で実行に移そうとする意欲を喚起するこ

とができた。個人作業による演習では、受講者各自の地域の教育資源を洗い出し、4分野「自然」「伝統産業・地場産業」「人材・団体・教育施設」「文化・歴史・食」に分類した。洗い出した教育資源をもとに、午前中の講義の実践事例を参考に、各自が1つの授業や活動にまとめ企画した。その後、一人一人がグルー



プ内で企画書を発表し、各グループから代表となる企画の一つを選び、グループ内の他のメンバーが企画をさらに良くするアイデアを出し合った。



国立教育政策研究所社会リサーチの必要性シンポジウムでは、地域連携の実践事例の紹介をしていただいた。地域連携の組織、活動内容、連携の仕方、校内や地域での会議の持ち方、環境整備の工夫等、参考になる事例が多かった。また、コーディネーターが抱えている悩みや課題も教えていただいた。

8月7・8日 基調講演、シンポジウム

「これからの地域と学校の連携・協働のあり方を考える」

等について学んだ。
① 学校の資源を地域に還元すること
② 教科・特別活動・学校行事等を地域住民に開くこと
③ 地域住民も学校で学ぶこと
この3点が特に印象に残る基調講演であった。

学校を核として、地域総がかりで「コミュニティ」を活性化させる。改めて、教育改革と地方創生の動向から学校と地域の連携・協働の必要性を一緒に考えてみませんか。まずは、地域住民に学校に来てもらう。そのきっかけになるチラシをつくりました。ぜひ御活用ください。そして、来年度もぜひ受講してください！お待ちしております。



五十嵐のひと言